

フオックスは今日香港に於て重要談を發表せるが左の如し「米國は目下極力軍需資材を中國に供給し、約反攻に便しあるが對支援助は目下左の三種の方法に依りをれり。
(一)貸與法案に依り現金を要せずして各種の兵器及び必要の物資を供給しあるが之は現金の準備あるも買付の容易ならず。

(二)輸出銀行より中國に借款を與へ米國より麥粉、棉花、織物、トラック、滇緬公路建設用のチャーン、其他材料の買付に便しあり、而して中國はアンチモニー、錫、タングステーン、桐油及び其他の物資を擔保としあり。

(三)爲替平衡準備基金の用途は中國の法幣安定及び商業信用組合を成立するにあり。

◎日軍爆撃に重慶英大使館爆碎

△上海電報(ロイテル電) 七月一日

(重慶發)廿九日の日本空軍重慶爆撃に於ては一五〇名以上の死傷者を出した模様であるが、この際英國大使館は完全に破壊され、同大使館防空壕内に避難してゐた者に二名の死者と十一名の負傷者が出た。この日の空襲は今迄の中最も廣範圍なもの一つで揚子江南岸にも投擲された。アメリカ、メソヂスト、モツシヨンの病院も木葉微塵に打壞された。



外國宣傳情報 第四十七號

昭・一六七・四情報局

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的なる報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎獨伊の南京政府承認と重慶

重慶放送によると、樞軸各國の南京政府承認に關し、獨伊の戰略に對する日本の援助が條件ならずやとあり獨伊の對日非友交的行爲は極東への戦争波及を招來するものなりと宣傳しあり。

△重慶 七月二日 支那語放送

獨伊の南京政府承認については支那官邊筋では未だに公の發表を差控へてゐるが、「重慶と柏林、羅馬間の關係斷絶並に極東への戦争波及を招來する虞あり」と云ふのが支那各界

に現はれた最初の反應である。想起すれば重慶外交部では昨年三月三十日次の様な之と同様内容の覺書を諸外國に提出してゐる。

「支那政府は既に數度に亘つて聲明せる様に南京に於ける如き非合法的政府或は其他の支那方面に存在する如き如何なる組織のなす如何なる行爲も無効なるものであり、又支那政府及國民の承認せざるものであるとの宣言を今回も強く反復したい。支那政府は自尊心を有する國家は凡て國際關係處理に於て法律を支持し、支那に於ける日本の傀儡政府を正當に且事實的に承認する事に同意せざるものと信じて疑はない。如何なる形式をとるにせよかゝる承認を表明する事は國際的法律及條約の違背であり、且支那國民に對する最も非友好的行爲として思考せられるであらう。」

又本年三月十日の支那國民政治會議の聲明文は「若しも孰れかの政府が支那に反し日本を支持して汪精衛の傀儡政府を認むるならば、吾人は斯る國家を支那の敵として見るであらう」と述べてゐる。

支那、獨逸、伊太利は過去四年間正常なる外交關係を維持しつつありと雖も、獨逸は一九三九年オスカートラウトマン大使を召還したまふ機任を遂げず、伊太利は大使を任命したが上海に留つたまふ重慶を訪問した事がない。一方支那の政治、民衆、新聞は民主主義國家の對極軸戰に對し同情と支持とを率直に表明し來つてゐる。斯ふ譯であるから一度獨逸の南京政府承認が確認されんか、支那と獨逸との外交關係斷絶は火を見るよりも明らかで

る。支那の南京に於ける日本の支持を條件として居るに非ざるのことが明である。

◎重慶に於ける外人政治顧問

米人ラテイモアの顧問決定に關し、重慶側より出づる放送は、米國の對支同情の現れであり且同人が有数の親支。支那通なるにより、支米協力の促進に多大の貢獻あるべしと宣傳しあり。

△重慶（UPC） 六月二十九日

當地政界は蔣介石の政治顧問にオーエン・ラテイモアが任命されたことを重視し、かかる要職にアメリカ人が任命されるのは始めてのことであると述べてゐる。これまでに唯二人の外國人がこの職に就いてゐたことが想起される。その一人はボロヂンで、彼は一九二四年から一九二七年まで蔣介石の顧問をしてゐた。もう一人はW. H. ドナルドであるが、彼は顧問と云ふ名稱を持たず、いつも單なる「總統の客」であつた。それ故ラテイモアは蔣介石の二代目の外人顧問である。總統の軍事顧問はボロヂンと同じ頃の北伐當時に支那